



今月のトピック

展着剤を活用して
病害虫防除の効率UP!



暖かくなり、病気や害虫対策で農薬散布をする時期となってきました。薬剤を無駄なく散布したり、効果を安定させるためには展着剤の加用が不可欠です。今回は、その展着剤の主な特徴についてご紹介します！

展着剤の種類と特徴

● 『一般展着剤』とは？

表面張力を下げ、作物への濡れ性や付着性を高め、薬剤を均一に付着させます。比較的薄い濃度（5,000～10,000倍）で使用するものが多いです。薬剤の付着ムラが少なくなるので、散布した**薬剤が乾きやすく、果実や作物が汚れにくくなる**のも特徴です。浸透性や薬剤の成分を作物に残す機能はないため、降雨等があると成分が流れ落ちてしまいます。施設栽培の**作物収穫期での使用や、散布ムラを改善したい場合におすすめ**です。

【商品例】『まくひか』

散布した瞬間に薬剤が作物の表面に広がり、乾きやすいのが特徴です。水滴が残りにくく、薬剤による汚れも軽減されます。



● 『機能性展着剤（アジュバンド）』とは？

一般展着剤の効果に加え、**浸透性を高める効果を持ち、薬剤が植物体内に入りやすくする**ものです。一般展着剤に比べて濃い濃度（500～1,000倍）で使用します。薬剤を植物内に染み込ませることで、**薬剤の効果の向上、残効性の長期化などの効果が期待**できます。**難防除病害虫の薬剤対策時などにおすすめ**です。

【商品例】『アプローチBI』

浸透性を高め、植物体内に成分が染み込みやすくなります。治療効果を求める殺菌剤の散布等におすすめです。

【商品例】『スカッシュ』

優れた濡れ性で作物への付着性だけでなく、ハダニ等の小さな害虫も包み込む性質があります。殺虫剤の散布時など害虫防除対策におすすめです。

● 展着剤に関するよくある問い合わせ

□ どの農薬にも展着剤は混ぜたほうが良い？

→**浸透性の強い薬剤や混用不可の薬剤への加用には注意しましょう！**散布時の条件によっては薬害が出るおそれがあります。

□ 乳剤タイプの農薬には展着剤は不要？

→**乳剤やフロアブルタイプの農薬には界面活性剤が入っていますが、展着剤を加えた方が付着性や効果が安定**します。

葉面散布剤への
展着剤加用もおすすめです！

※浸透性が高い肥料は
薬害に注意しましょう

